

インバスターデイ 2021 質疑応答

開催日： 2021年6月8日（火）

説明者： 執行役員 エネルギー第一本部長兼エネルギーソリューション本部長 松井 透

司会進行： IR 部長 稲室 昌也

<質問 1>

水素・アンモニアについて、2030年頃に向けてどの程度の定量貢献を見込んでいるか。定量を示すのが難しければ、定性的な説明をお願いしたい。また、地域として日本マーケットを狙っているのか或いはグローバルに収益を取り込んでいく方針なのか。

<回答>

現時点では2030年の定量見通しについて明確な説明をするのは難しいので戦略的な観点から回答させてもらいたい。当社の水素・アンモニアの戦略は短期・中期・長期と3つの時間軸に分け、地域は日本に限定せずグローバルに取り組んでいく。短期的には、制度面で先行する地域、例えば米国カリフォルニア州での地産地消型案件に注力しており、同州最大の水素ステーション網を持つ First Element Fuel 社に出資、それを通じ水素の知見を獲得し、ネットワークを構築する取り組みを進めている。中期的には、産業用途が収益源になっていくという見立てをしており、例えば当社の総合力を活用した、鉱山機械向けの水素供給事業を検討中。長期的には、燃料アンモニア或いは水素を発電用途として供給することを見据え、ブルー水素／アンモニア、グリーン水素／アンモニアの製造事業の実証や事業化可能性の検討を実行中。発電用途は当社強みが大きく生かせる分野と認識しており、長期的に確りとコミットして取り組んでいく方針。

<質問 2>

エネルギーソリューション本部の取組や方向性は理解したが、定量貢献としてどのように落とし込まれていくのかを知りたい。昨年のインバスターデイで定量目標として2025年100億円、2030年200億円が示されたが、特に手前の2025年100億円に向けて、どういった事業が貢献していく見込みなのか。

<回答>

昨年のインバスターデイで掲げた定量目標は、現在進めている取組を通じて達成すべく引き続き目指していく。一方、取組を進めていく過程で、現在見込んでいる以上に事業を拡大する機会が訪れる可能性もあり、この数字には必ずしも拘らず、更なる高みを目指す気持ちは常に持っている。

エネルギーソリューション分野で短期的に加速していくのは再生可能エネルギー(RE)発電と認識しており、当社が取り組む分散電源を含む RE 発電事業が最初に収益貢献していく。次に続くのは、現在推進中の Lanzatech 社とのバイオ燃料事業等の低炭素ソリューションを提供する事業になると考えている。また、グローバルな低・脱炭素化の潮流の中、自動車に代表される輸送部門の電動化も今後加速していくと見ており、RE 発電事業と EV の繋がり、蓄電池の活用など New Downstream 関連事業がそれに次いで収益貢献していく。

以上